



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和5年5月22日

6月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

思いやる心

校長 さんべい 三瓶 あつし 淳

低学年の下校時刻に合わせて、正門を開けようと歩いている時に、放課後キッズクラブへ行く2年生の子どもから「暑いですね。校長先生、いつも（正門を開けてくれて）ありがとうございます。」と声をかけられました。このコミュニケーション能力の高さに驚くとともに、きっとご家庭でもそのような挨拶の機会を大切にされているのだらうと思いました。相手を**思いやる**気持ちが、とても素敵ですね。

さて、5年生は5月15日より1泊で上郷森の家で宿泊体験学習を行ってきました。コロナ禍にあった制限も解除され、バス車内では友達と並んで座ってバスレクをやったり、食事では対面で話をしたりして過ごしました。それだけでも、子どもたちは、学校で見たことのないような満面の笑みを見せ、その姿を見守る教師側も思わず表情が緩みました。

体験型の宿泊では、友達と協力して取り組む内容が多いので、相手を**思いやる**気持ちが大切になってきます。今回のプログラムでも班での散策、火起こし、端材を使ったタワー作りなどがありました。自分の考えや判断だけでなく、相手の意見を聞きながらより良い方向に向かって進んでいくことは、調整力だけでなく自立心も育てます。学校にいる時は、すぐに先生に聞いたり、甘えたりする子も、この体験学習では、仲間同士で意見を出し合い確認しながら自分たちの力で行動する場面が多くありました。そんな姿を見ていると、コロナ禍は、学校外での行動を止めたり、制限をかけたりして、子どもたち同士で高め合う力が育つ機会を奪ってしまったのだと改めて感じました。

ところで、地域行事もどんどん復活してきています。4月には小机城址まつりに参加し、甲冑を着る経験をさせていただきました。簡易バージョンでの復活でしたが、それでも沿道には大勢の見物客が集まり、まつりに対する愛情の強さを感じました。今後再開する祭事も楽しみになりました。また、学校の近くに、地域の居場所づくりとして「町カフェ」が出来るというお知らせがありました。人と人が繋がると、いろいろな情報を簡単に手に入れることができ、顔が見える関係が構築され、防犯上でも効果があると言われています。地域を**思いやる**人たちの思いや願いをどんどん繋いで、より一層、子どもたちが安心して安全に過ごせる地域になることを願っています。